



収穫までの管理



水 稻
田代 好幸
農畜産課
0969-22-1105

中干し後からの水管理

中干し終了後（平年5月末日）から穂ばらみ期前までは、間断灌水で管理し、水と空気を根に補給し根の活力を上げ登熟向上に努めてください。

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理を行いましょ。

*1株の茎数が18本程度確保できたら中干しを行ってください。（中干し期間は、5月10日頃から10日間程度で、稲の状態を見ながら中干し実施）

穂肥施用

6月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つけてましょ。畦から1畝以上水田に入り標本を採ります。標本は株の最長葉の茎を一枚のほ場から3株以上取りましょ。茎は一枚ずつはいで、幼穂の長さを測ります。長さが1.0～1.5ミリの頃に穂肥を施用ましょ。

穂肥の目安（出穂前25日前後—幼穂長1.0～1.5ミリ）

稲の葉色を見て適正な量を施用してください。

葉 色	4未満	4以上4.5未満	4.5以上
有機苦土047	15kg	10kg	施用しない

葉色の判定は、葉色板（カラススケール）を使用してください。太陽を背にして稲の葉色を見ましょ。

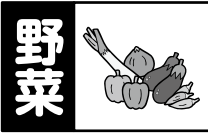
病害虫防除

特別栽培においては防除回数が限られていますので、健全な稲作りと畦畔の草刈り等や、ほ場の見回りの徹底による耕種防除と組み合わせた適期防除に努めてください。（病害虫情報は、各支所経済課へ問い合わせてください。）

尚、5月中旬頃から、葉いもち・紋枯病の発生が始まっていますので、5月上旬にオリブライト豆つぶの予防剤の散布を実施してください。（中干し前に散布し、7日間は落水しないでください。）*中干し後でも、散布は可能です。

防除の際は、使用基準を遵守し飛散等のないよう心がけるとともに、栽培管理台帳への記入もお願いします。

農作業に伴う道路の泥汚れ防止について
トラクター等の農作業の際は、田・畑から公道に出る前には必ず機械に付いている泥を落としてから走行するようにお願いします。
道路に落ちた泥は、通行の妨げになる恐れがあります。また、みだりに道路を汚損することは法律で禁止されており、違反した場合は一年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処せられます。（道路法第43条第1項、道路法第102条3項）
道路に泥などで汚した場合は、速やかに清掃するなどの対応を行い、道路はいつもきれいに保ちましょ。



春インゲン今後の管理



野 菜
坂田 沙貴
上島営農指導センター
080-1759-0091

これからの時期は、ハウス内温度、湿度共に高くなってましょ。このため、灰色カビや、品温の上昇による蒸れ等発生しやすくなりますので、防除や収穫後の管理、換気等は注意をお願いします。

温度管理

15～25℃で日中30℃以上にならないように注意してください。

灌水・追肥

極端な乾燥は、収量・品質に影響するので、着莢後は少量多回数の灌水を行いスムーズに太らせましょ。草勢を見ながら行い、後半は液肥で行いましょ。

- 例) 穴肥 アサヒエース
液肥 トミー液肥ブラック等（500倍）
葉面散布 メリット青（500倍）

摘葉

摘葉は収穫を行いながら行い、老化葉・病葉・込み合う葉を摘葉し通風、採光を良くし、病害虫の発生を抑制ましょ。一度に沢山摘葉をすると樹勢の低下につながるため注意が必要です。

病害虫防除

ヨトウムシ類、マメハモグリバエ、アザミウマ等

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象病害
アフーム乳剤	2000倍	収穫前日	2回	ハモグリバエ類
プレオフロアブル	1000倍	収穫前日	2回	オオタバコガ、ハモグリバエ類
カスケード乳剤	2000倍	収穫前日	2回	マメハモグリバエ
パダンSG水溶剤	1500倍	収穫前日	3回	マメハモグリバエ
ディアナ SC	2500～5000倍	収穫前日	2回	アザミウマ類

灰色カビ病

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象病害
セイビアーフロアブル 20	1000～1500倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病
アミスター20フロアブル	2000倍	収穫前日	3回	灰色カビ、菌核病



5月・6月の柑橘園管理

果 樹

原口 悠貴
下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 病虫害防除

品 種	対象病虫害	属性	農薬名	希釈倍数	水1000ℓ当りの 使用量	散布時期
全品種	ケシキスイ類 コアオハナムグリ	劇物	モスピランSL液剤	4,000倍	25mℓ	満開期（開花期間）
全品種	灰色カビ病 そうか病	普通物	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000倍	25g	
中晩柑	ホコリ・サビダニ カイガラ類	普通物	モベントフロアブル	2,000倍	50mℓ	5月中旬～下旬 (落弁期～一次落果期)
全品種	黒点病	普通物	ナティーボフロアブル	1,500倍	66g	
全品種	カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ	普通物	トランスフォームフロアブル	2,000倍	50mℓ	6月上旬～下旬 (2次落果期)
	黒点病	普通物	混用 ジマンダイセン水和剤	600倍	166g	
	展着剤	普通物	加用 アピオンE	1,000倍	100mℓ	
温州	ミカンハダニ	普通物	ハーベストオイル	200倍	500mℓ	6月中旬～下旬 (2次落果終了後)
	黒点病	普通物	ジマンダイセン水和剤	600倍	166g	
	ホコリ・サビダニ	劇物	ハチハチフロアブル	2,000倍	50mℓ	
中晩柑	ミカンハダニ	普通物	ハーベストオイル	150倍	666mℓ	6月中旬～下旬
	黒点病	普通物	ジマンダイセン水和剤	600倍	166g	
	ミカンサビダニ	劇物	ハチハチフロアブル	2,000倍	50mℓ	

※ケシキスイ類、コアオハナムグリには、エクシレルSE〔普通物〕5,000倍も使用可。（開花期）

※灰色カビ、そうか病はフルーツセイバー 1,500倍〔普通物〕も使用可。（開花期）

※モベントフロアブル〔普通物〕で皮膚炎等の恐れがある場合は、アグリメック 2,000倍を使用する。

※カイガラムシが多い園では、エルサン乳剤〔劇物〕1,000倍を散布。（6月中旬～下旬）

2. 施 肥

○通常タイプ

対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり
早生・中熟・普通温州	果樹専用スペシャル	6月上旬	2袋
河内晩柑・清見 甘夏・パール柑			5袋
ポンカン			3袋
デコボン			4袋

3. 葉面散布

目 的	薬 剤 名	希釈倍数	備 考
樹勢維持	尿 素 又は アミノジューシーN14 又は 神協スピリッツ	500倍	収穫後：3回程度集中散布 及び 発芽～新梢伸長期
緑化促進	葉面マグ	200倍	緑化が遅れそうな場合
新梢充実	ジューシーカル	1,000倍	デコボン等

4. 着果対策(かんきつ)

ジベレリンの散布…ジベレリンを散布する事により、着果性が向上します。主に赤道部を中心に散布しましょう。

尿素を500倍加用する事により効果が上がります。

○使用時期…開花～満開10日後（開花後処理時期が早いほど効果が高い）

希釈表（開花期） 25ppm 50～100ℓ	ジベレリン液剤 40mlの場合	水 8ℓに1本	尿素 500倍（16g）	使用液量 10a当たり
	ジベレリン液剤 100mlの場合	水20ℓに1本	尿素 500倍（40g）	